

奥州市まち・ひと・しごと 創生総合戦略

平成 28 年 3 月



奥州市

目次

1. はじめに	1
(1) 奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の考え方	1
(2) 計画期間	1
2. 奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要と位置付け	2
(1) 基本方針の設定	2
(2) 基本目標の設定	3
3. 基本目標の達成に向けた基本的施策	5
(1) 安定した雇用と新しい産業の創出	5
(2) 出会いを通じた結婚支援、子育て環境ナンバーワンへ	9
(3) 体験を通じた新たな奥州ファンの開拓	11
(4) 地域愛の醸成と、安心・安全に生活できる個性豊かな地域社会の実現	13
4. 推進に向けた留意点	16
(1) 庁内推進体制の整備	16
(2) 上位計画等との連携	16
(3) 地域連携による推進体制	16
(4) KPI の把握	16

1. はじめに

(1) 奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の考え方

国においては、急速な少子高齢化の進展、人口減少に歯止めをかけるとともに、東京圏への人口の過度の集中を是正し、地域での住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある日本社会を維持していくことを課題として、平成26年11月にまち・ひと・しごと創生法を制定した。

まち・ひと・しごと創生法では、国民が個性豊かで魅力ある地域社会において、潤いのある豊かな生活を営めることや、結婚・出産・育児に希望を持てる社会が形成されること、仕事と生活の調和を図れる環境の整備、地域の特性を生かした創業の促進や事業活動の活性化による魅力ある就業機会の創出に向けて、国と地方公共団体及び事業者が相互に連携を図りながら協力するよう努めることなどを基本理念としている。

まち・ひと・しごと創生法に基づき、国は、日本の人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」とともに、平成27年度から平成31年度までの5ヶ年間の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめた「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を、平成26年12月27日に閣議決定した。その中では、国と地方が一体となって、中長期視点に立って取り組む必要があり、各地方公共団体においては、国の長期ビジョン及び国の総合戦略を勘案しつつ、「地方人口ビジョン」、「地方版総合戦略」を策定し実行するよう努めるものとされている。

「奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、「奥州市人口ビジョン」を踏まえた上で、地方に、「しごと」が「ひと」を呼び、「ひと」が「しごと」を呼び込む好循環を確立し、地方への新たな人の流れを生み出すこと、その好循環を支える「まち」に活力を取り戻し、人々が安心して生活を営み、子どもを産み育てられる社会環境を作り出すために、平成27年度から平成31年度までの5ヶ年間の目標や施策の基本的方向、具体的な施策をまとめたものである。

(2) 計画期間

奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、平成27年度から平成31年度までの5ヶ年間を計画期間とする。

2. 奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要と位置付け

(1) 基本方針の設定

現在の地方の状況は、全国横並びの政策を続けてきた結果、都会と地方という単純な二極化の中に組み込まれ、どこに行っても同じような街並みが並び、本来あるべきまちの個性が埋没し、地域の魅力が失われ、結果的に若者の人口流出を止めることができない原因になっている。

それぞれの地方は、それぞれの歴史的風土や魅力的な資源をもっており、地方という一括りの中に納まるものではない。

地方の活力を取り戻すことは、地方の個性を取り戻すことに他ならない。奥州市には、他にはない素晴らしい財産が無数にある。しかし、それを活かしていけるかは、奥州市民のやる気と行動にかかっている。住民自らが自分たちの住む社会をより良いものにしていくことで、地域を誇りとし、幸せを実感できるまちにしていくことこそが、個性豊かなまちづくりであり、本当の意味の地域活性化ではないだろうか。

また、市民が幸せを実感できる奥州市だからこそ、他の地域に住む人々も移住してみたいと思える市になっていくのではないだろうか。

奥州市は、北上山地と奥羽山脈に挟まれ、その中心を北上川が流れる肥沃な地帯であり、前沢牛、江刺りんごを始めとする質の高い農産物を生み出している。

歴史的にも、この地域は、縄文文化の一大拠点であり、その後、阿弭流為から奥州藤原氏へと続く平泉文化の中で重要な拠点として栄え、そうした風土から、高野長英、後藤新平、斎藤實など、江戸末期から明治へと続く、近代日本を切り開いた偉人を多数輩出している。

また、焼石岳を主峰とする奥州市西部に位置する焼石連峰は、ブナの原生林が多く残されており、そこから流れる河川は、胆沢ダムにより生まれた奥州湖につながり、新しい観光資源として注目されている。また、胆沢川の扇状地が生んだ胆沢平野の散居集落は日本三大散居集落の一つに数えられている。

奥州市東部には、宮沢賢治がこよなく愛した種山ヶ原や、放牧地でありツツジの名所にもなっている阿原山高原、西行法師が吉野の桜にも勝ると詠んだ東稲山が連なっており、蘇民祭で名高い黒石寺や日本一の茅葺屋根を持つ正法寺などの古刹がある。

その他にも、星空日本一に選ばれた衣川や、坂上田村麻呂が建設した胆沢城跡、Z項発見の場所にもなった国立天文台水沢 VLBI 観測所、数々のNHK大河ドラマのロケ地として利用されている「えさし藤原の郷」など、豊富な歴史観

光資源に恵まれている。

こうした、豊かな自然を有する市でありながら、市の中央をJR東北新幹線、東北本線や東北自動車道が走っており、東京とのアクセスも2時間程度と非常に交通の便が良い地域でもあり、多くの工業団地を備え、県南広域圏の雇用の場としての役割を果たしている。

また、南部鉄器や岩谷堂箆笥など、優れた伝統工芸品の産地としても知られている。

奥州市の魅力あふれる観光資源と品質の高い農畜工芸産物を内外に発信するとともに、基幹産業である一次産業の基盤強化と企業誘致の促進による雇用環境の一層の充実、そして、起業の推奨による新産業を創出し、豊かな自然と快適な都市基盤が調和した生活利便性の高いまち、子育て環境に優れたまち、そして、ふるさとに誇りをもち、幸せを実感できるまちをつくることを、奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本方針とする。

(2) 基本目標の設定

「歴史的風土と豊かな自然に快適な都市基盤が調和した、
誇りと幸せを感じられるまち奥州」

奥州市人口ビジョンに定めた将来像である「歴史的風土と豊かな自然に快適な都市基盤が調和した、誇りと幸せを感じられるまち奥州」の実現を図っていくため、奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標を以下に定める。

<奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標>

- 目標1 安定した雇用と新しい産業の創出
- 目標2 出会いを通じた結婚支援、子育て環境ナンバーワンへ
- 目標3 体験を通じた新たな奥州ファンの開拓
- 目標4 地域愛の醸成と、安心・安全に生活できる個性豊かな地域社会の実現

<基本的施策>

基本目標	基本的施策
安定した雇用と新しい産業の創出	①農・商・工・伝統工芸産業などの産業基盤の強化と新産業の創出 ②地の利を活かした企業誘致等による雇用拡大 ③観光を核とした交流人口の拡大による関連産業の活性化
出会いを通じた結婚支援、子育て環境ナンバーワンへ	①出会いの機会の創出 ②安心して子どもを産み育てられる環境づくり
体験を通じた新たな奥州ファンの開拓	①移住・定住に向けた情報発信 ②移住者等の就業・起業支援 ③魅力ある奥州市の地域資源を生かした交流人口の拡大
地域愛の醸成と、安心・安全に生活できる個性豊かな地域社会の実現	①生涯を通じた学習支援による、人づくりの推進 ②地域住民が主役となるまちづくりの推進 ③災害に強く、犯罪のない、安心・安全な地域づくりの推進

また、本計画期間における人口目標を以下の通りとする。

	現状(2015)	将来(2019)
社会増減	△373	△280
婚姻届出件数(年間)	503	490
出生届出数(年間)	839	836
合計特殊出生率	1.52	1.7

3. 基本目標の達成に向けた基本的施策

(1) 安定した雇用と新しい産業の創出

<基本的施策>

- ①農・商・工・伝統工芸産業などの産業基盤の強化と新産業の創出
- ②地の利を活かした企業誘致等による雇用拡大
- ③観光を核とした交流人口の拡大による関連産業の活性化

■ 基本的施策のポイント

①農・商・工・伝統工芸産業などの産業基盤の強化と新産業の創出

前沢牛や江刺りんごなどに代表される良質な農産物、豊富な森林資源、県下有数の工業団地、南部鉄器、岩谷堂箆笥などの伝統工芸品など多彩で魅力ある奥州市の産業基盤を強化するとともに、起業を促進し、魅力ある商店街を形成し、新産業を創出することで、雇用の維持・拡大を図る。

KPI（重要業績評価指標）	単位	現状(2015)	将来(2019)	目標設定の考え方
創業支援者数（年間）	延べ 人数	52	100	窓口相談：20名 塾：20人×4回
新商品開発・販路開拓支援件数 （累計）	件	1	10	年2件×5年
伝統工芸技能継承者育成事業 による技術継承者（累計）	人	3	5	3年に1人ずつ技能継承者を雇用し 育成
ジョブカフェ奥州等を通じて 就職決定した人数	人	60	60	5人/月で現状維持を目指す
市街地内の交通量	人	15,752	16,391	1年間に1%の増加を目標とし、4 年間で4%の増加を目標とする
認定農業者数	人	1,032	1,032	現状維持を目標とする
新規就農者数	人	22	22	現状維持を目標とする
奥州ロマン改植面積（a）	（a）	0	150	150a(1,500本)の改植を目標 J A江刺管内 110a J Aふるさと管内 40a

肥育農家あたり飼養頭数	頭	40.4	50	飼養頭数の増を目指す
繁殖農家あたり飼養頭数	頭	7.2	9	飼養頭数の増を目指す
森林組合の年間伐採量	(m ³ /年)	7,000	8,500	奥州地方森林組合経営基盤強化5ヵ年計画による
奥州地方森林組合員数	人	3,203	3,250	組合員数の増を目指す

②地の利を活かした企業誘致等による雇用拡大

東北自動車道（水沢IC、平泉前沢IC）、国道4号、東北新幹線（水沢江刺駅）、東北本線（水沢駅）等広域交通の要衝である奥州市の地の利を活かし、企業誘致、企業の設備投資の円滑化を推進し、雇用の拡大を図る。また、農業分野においても地元農業者と連携し、ICTを活用した事業等を行う企業の誘致を推進する。

KPI（重要業績評価指標）	単位	現状(2015)	将来(2019)	目標設定の考え方
企業誘致件数（累計）	社	3	15	年間3社の県外（市外）企業を誘致

③観光を核とした交流人口の拡大による関連産業の活性化

奥州湖を中心とした焼石岳周辺の観光地化を進めるとともに、黒石寺、正法寺などの歴史的古刹、水沢の偉人記念館、数多くのNHK大河ドラマのロケ地になっている、えさし藤原の郷など豊富な観光スポットや既に多くの受け入れを行っているグリーンツーリズムやワーキングホリデーなどの奥州市ならではの体験型観光など、優れた観光資源を効果的に首都圏等へPRし、国内、海外からの誘客を促進する取り組みを行う。

KPI（重要業績評価指標）	単位	現状(2015)	将来(2019)	目標設定の考え方
観光入込推計（年間）	延べ人数	2,209,000	2,370,000	28年度：対前年度比5%増 29年度：対27年度比2%増（前年度は国体開催のため） 30、31年度：対前年度比3%増
外国人観光客の入込推計（年間）	延べ人数	1,350	2,300	28、29年度、対前年度比20%増 30、31年度、対前年度比10%増

体験プログラム参加者数	人	0	50	企業各種団体等が実施する体験プログラムへの参加者数
-------------	---	---	----	---------------------------

■施策一覧

基本的施策	施策
農・商・工・伝統工芸産業などの産業基盤の強化と新産業の創出	<ul style="list-style-type: none"> ◆（重複）「食の黄金文化・奥州」ブランド魅力強化・発信事業 ◆食の黄金文化・奥州提案モデル事業補助金 ◆攻めの奥州・農産物海外販売プロジェクト ◆奥州市産新品種りんご「奥州ロマン」導入促進事業 ◆川上から川下に至る森林資源活用事業 ◆商店街活性化事業 ◆奥州市創業支援事業 ◆中小企業・小規模事業者販路開拓等支援事業 ◆南部鉄器等技術継承者育成及び独立創業支援事業 ◆伝統工芸技術活用製品販路拡大支援事業 ◆ジョブカフェ運営事業 ◆奥州ブランド牛生産拡大事業 ◆新規就農者支援事業 ◆中高年新規就農者支援事業 ◆農業マイスター事業 ◆雇用対策事業 ◆人材育成事業 ◆未知の活力・産業育成事業
地の利を活かした企業誘致等による雇用拡大	<ul style="list-style-type: none"> ◆総合的企業立地促進事業 ◆企業誘致事業
観光を核とした交流人口の拡大による関連産業の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ◆（重複）奥州観光ゴールデンルート構築事業 ◆（重複）「食の黄金文化・奥州」ブランド魅力強化・発信事業 ◆（重複）市内の地域資源・観光資源を活用した観光スポットの発掘・創作と魅力発見ツアーの実施 ◆食の黄金文化・奥州料理コンクール優秀作品国体会場販売 ◆食の黄金文化・奥州お土産フェア ◆後藤新平をきっかけに観光資源（藤原の郷、胆沢ダム、温泉等）を活かした訪日台湾観光客誘客事業 ◆外国人観光客受入環境広域認証制度 ◆多言語表記促進事業

基本的施策	施策
	<ul style="list-style-type: none"> ◆免税店登録推進事業 ◆産地づくり推進事業 ◆地域ブランド推進事業 ◆観光振興事業 ◆物産振興事業 ◆ロケ対策事業

(2) 出会いを通じた結婚支援、子育て環境ナンバーワンへ

人口増に向けた目標

<基本的施策>

- ① 出会いの機会の創出
- ② 安心して子どもを産み育てられる環境づくり

■ 基本的施策のポイント

① 出会いの機会の創出

新設された「いきいき岩手結婚サポートセンター」への登録費助成により結婚希望者への支援を行う。また、奥州市の特徴的な活動である厄年を中心としたネットワークを更に拡充させるため、遠方者が参加する際の助成や、若い世代の出会い創出や婚活イベントを企画・運営する団体等を支援し、多様な「出会い」に関する取り組みをサポートする。

KPI（重要業績評価指標）	単位	現状(2015)	将来(2019)	目標設定の考え方
出会い創出・結婚支援団体の認定登録団体数	団体	0	10	既存の活動団体（5団体程度）の倍増を目指す
登録団体のイベント開催数	人	0	20	2回/認定団体

② 安心して子どもを産み育てられる環境づくり

すべての子どもが健やかに育ち、また、誰もが安心して子どもを産み育てることができるよう、安心して出産できる環境の整備、各種相談機能の充実、多様な保育サービスの提供を図り、社会全体で子どもを育てられる地域づくりを進める。

KPI（重要業績評価指標）	単位	現状(2015)	将来(2019)	目標設定の考え方
不妊治療の助成件数(年間)	件	67	87	現状：特定不妊治療 67 目標：特定不妊治療（男性）5 ＋一般不妊治療 15＋上記
待機児童数（10月1日現在）	人	58	0	待機児童 0 を目指す

企業への子育て支援セミナー等参加社数（累計）	社	0	40	市内女性型企業参加社数（推定 10社）×セミナー1回（年）×4年
放課後児童クラブの定員数	人	674	1,180	12 クラブ（40 人基本）の増設を目指す
高校における思春期保健事業（医師講話）の実施校	校	6	8	全校で実施
高校における思春期保健事業（保健・助産師講話）の実施校	校	7	8	全校で実施
市立病院の医師新規着任数（年間）	人	1	2	2019 から医師奨学生に着任を目指す

■ 施策一覧

基本的施策	施策
出会いの機会の創出	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 広域での出会い促進加速事業 ◆ 出会い創出・結婚支援団体の認定登録制度の創設
安心して子どもを産み育てられる環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 不妊治療助成制度の推進 ◆ 医師確保対策の強化（産婦人科・小児科） ◆ 子育て支援専門相談員の設置 ◆ 企業に対する子育てしやすい労働環境の整備促進 ◆ 利用しやすい子育て支援サービスの提供 ◆ 思春期保健対策の推進

(3) 体験を通じた新たな奥州ファンの開拓

<基本的施策>

- ①移住・定住の促進
- ②移住者等の就業・起業支援
- ③魅力ある奥州市の地域資源を生かした交流人口の拡大

■基本的施策のポイント

①移住・定住の促進

移住希望者の期待や不安など様々なニーズに応じたきめ細やかで信頼できる情報発信、移住体験の提供、Iターン・Uターン者に対する補助制度の拡充等により、多くの方に奥州市に興味・関心を持ってもらい、さらに移住・定住につなげる施策を推進する。

KPI（重要業績評価指標）	単位	現状(2015)	将来(2019)	目標設定の考え方
ホームページの閲覧数	件	20,000	40,000	毎年2割増程度を目指す
UIターン者数（累計）	人	121	500	同数以上を目指す

②移住者等の就業・起業支援

グリーンツーリズムやワーキングホリデーなど、既に数多くの受け入れを行っている団体と連携した農業体験や、空き家や田舎空間での新しいワークスタイルの提案、伝統工芸産業の紹介など、若い世代が安心して奥州市に移住・定住が可能な取り組みを推進する。

KPI（重要業績評価指標）	単位	現状(2015)	将来(2019)	目標設定の考え方
ワーキングホリデー参加者数	人	50	60	一般参加者の受入10人を目指す

③魅力ある奥州市の地域資源を生かした交流人口の拡大

市民・事業者・行政が協働して豊かな自然の広がる風景の保全や、新たな観光資源の掘り起こしにより、奥州市の景観を活用して交流人口の増加を促す施策を推進する。

KPI（重要業績評価指標）	単位	現状(2015)	将来(2019)	目標設定の考え方
観光ガイドの利用者数	人	1,300	1,600	対象団体（みずさわ観光サポーターの会、いさわ散居ガイドの会、世界遺産登録候補地ガイドの会）
観光ガイドタクシーの認定者数	人	23	60	奥州・金ヶ崎観光ガイドタクシー運営委員会からの聴き取りによる
市の魅力発見ツアーの参加者数（累計）	延べ人数	0	40	10人/年

■施策一覧

基本的施策	施策
移住・定住の促進	<ul style="list-style-type: none"> ◆移住・定住サイトのコンテンツの充実と各種メディアを活用した都市圏などを対象とした情報発信 ◆住民との協働で作る新たな空き家バンクの創設 ◆移住者を受け入れる環境の構築
移住者等の就業・起業支援	<ul style="list-style-type: none"> ◆民間団体と連携したグリーンツーリズムやワーキングホリデーなどの体験交流の促進 ◆（重複）「食の黄金文化・奥州」ブランド魅力強化・発信事業 ◆子ども等の地域学習機会（地域学習・地場産業体験等）の拡充
魅力ある奥州市の地域資源を生かした交流人口の拡大	<ul style="list-style-type: none"> ◆奥州いなか体験ツアー ◆（重複）奥州観光ゴールデンルート構築事業 ◆（重複）市内の地域資源・観光資源を活用した観光スポットの発掘・創作と魅力発見ツアーの実施

(4) 地域愛の醸成と、安心・安全に生活できる個性豊かな地域社会の実現

<基本的施策>

- ①生涯を通じた学習支援による、人づくりの推進
- ②地域住民が主役となるまちづくりの推進
- ③災害に強く、犯罪のない、安心・安全な地域づくりの推進

■基本的施策のポイント

- ①生涯を通じた学習支援による、人づくりの推進

地域をつくるのは人であり、人は、生涯に渡る教育の中で生きる力を育んでいく。市民が主体的に学ぶことができるよう、生涯学習環境を充実させることが、奥州市の未来をつくることにつながる。

特に、子どもたちは、将来の奥州市を支える宝であり、家族や地域の中で健やかに育ち、この土地の歴史、風土を学び、ふるさとに対する愛着や地域への誇りを持ち、たくましく創造力のある人材となるよう、育てていく必要がある。

KPI（重要業績評価指標）	単位	現状 (2015)	将来(2019)	目標設定の考え方
家庭教育講演開催支援事業 実施件数	件	21	25	人口減少傾向を踏まえつつも、 微増を目標とする
青少年教育講座受講者数	人	48,541	49,000	
成人教育講座受講者数	人	24,285	25,000	
高齢者教育講座受講者数	人	16,353	17,000	
地域リーダー養成講座受講 者数	人	1,336	1,400	

②地域住民が主役となるまちづくりの推進

市民がまちづくりに主体的に参画できる基盤、機運づくりを進め、市内の人材や企業などがさらに活躍できる環境を整え、市民と行政との協働によるまちづくりを目指す。

KPI（重要業績評価指標）	単位	現状(2015)	将来(2019)	目標設定の考え方
地区センター事業数	件	1,565	1,650	5%程度の増
地区センター事業参加者数	人	162,113	170,000	
食の黄金店(料理に市産食材を使っている割合が基準以上の店を市で認定) 認定数	店	4	10	奥州市地域6次産業化ビジョンによる
NPO数	団体数	32	37	年1~2団体程度の増
マラソンの参加者数	人	1,927	3,000	3kmの部 500人 10kmの部 500人 フルマラソン 2,000人を目標とする

③災害に強く、犯罪のない、安心・安全な地域づくりの推進

自主防災組織の育成支援や防犯啓発など、常日頃から、災害に備え、防犯活動を推進し、災害に強い、犯罪のない地域づくりを目指す。

KPI（重要業績評価指標）	単位	現状(2015)	将来(2019)	目標設定の考え方
自主防災組織率	%	93.2	100	市内全域での組織化を目指す

■施策一覧

基本的施策	施策
生涯を通じた学習支援による、人づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆奥州を学ぶ副読本の作成と配布 ◆人づくりに資する、様々なライフステージに応じた学習機会の提供 ◆地域づくりを担う人材の育成
地域住民が主役となるまちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆ふるさと納税を活用した地域活性化の推進 ◆田舎の魅力再確認イベントの実施 ◆地産地消による地域おこしの推進 ◆奥州市統一マラソン大会実施によるまちづくり ◆協働型まちづくりの推進
災害に強く、犯罪のない、安心・安全な地域づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> ◆消防団員確保のため、団員対象のプレミアム制度の整備 ◆自主防災組織の設置推進 ◆ごみ焼却施設の長寿命化

4. 推進に向けた留意点

(1) 庁内推進体制の整備

行政の業務・事業は、所管する各課・担当ごとに進められている。奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略で掲げた施策は、課や分野を横断的にかかわる事が多いことから、本事業に取り組むための「仮称・奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会」を設置する。

(2) 上位計画等との連携

本計画については、平成 28 年度に策定する次期総合計画の重点プロジェクトとして位置付けるとともに、「奥州市観光基本計画」などの下位計画とも相互に連携・補完をしながら、奥州市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実現を確実なものとしていくこととする。

(3) 地域連携による推進体制

本戦略で掲げた各種事業の効果を高めるには、行政だけでなく、市民、企業、団体、NPO などと連携し合って進めていくことが重要である。行政が全ての取組の主体になるのではなく、地域、民間が主体となった方が効果的なものは、積極的に民間の力を活用し、広域連携も視野に入れながら、奥州市一丸となって、事業の推進に取り組んでいくものとする。

(4) KPI の把握

計画の実効性を着実なものにするためには、PDCA を意識することが必要である。本計画で掲げた KPI の達成に向けて、導入コストや効果、効率性などを総合的に判断した上で、より有効な手段を検討していく。この KPI は、民間人からなる検証組織を設置し、毎年進捗状況を確認し、必要に応じて、計画の見直しを図っていく。